### **慶良間諸島国立公園** ステップアップ プログラム2025

取り組み推進のための ワークショップ

**ニュースレター** Vol. 5

地域の皆さまが主体的に進めている(または進めたい)取組が国立 公園の魅力を高めることにつながっていることから、国立公園満喫 プロジェクトの取組の一つである「ステップアッププログラム2025 (以下、SUP2025)」で挙げられた地域の取組を具体的に進めることを目的に、令和4年度から地域関係団体の実務担当者が参加するワークショップを開催しています。

第3回ワークショップでは、意見交換で取り上げてほしい課題として 事前に挙げられた取組について、参加者全員で課題の解決方法や連 携・協働の可能性等について意見交換を行いました。

#### 第3回

# 2023年度の取組を振り返り、 取組を進める方法をみんなで考えよう



## 開催概要

#### 【座間味村】

日 時:2024年2月20日(火) 15:10~17:00 場 所:座間味村歴史文化・健康づくりセンター

参加者:地域関係者 7名

#### 【渡嘉敷村】

日 時:2024年2月29日(木)17:30~19:30

場 所:渡嘉敷村中央公民館 研修室

参加者:地域関係者7名



#### 当日のプログラム(両村共通)

- 1 開会
- ② 各参加者の状況報告
- ❸ 意見交換テーマ紹介
- 4 意見交換
- 5 閉会



今回はグループ分けをせず、はじめに各参加者から取組の進捗状況・課題が共有され、その後、事前に挙げられたテーマについて活発な意見交換が行われました。以下に、話し合われた内容の一部をご紹介します。

#### 意見交換の概要@座間味村



| テー   | マ | / |   |
|------|---|---|---|
| 2025 | の | 目 | 標 |

#### 現状・課題

#### 挙げられた主なアイディア

#### 

- 紳士協定でローカルルールが守られて いる現状は良いことだが、この先も守 られるのか不安がある。
- 保全活動やルールを徹底し、何十年先 まできれいな海を残したい。
- 新規事業者や海外の人達にはローカル ルールが通じず、法的なルールが必要 になると思う。
- 誰が業者に指摘するか決まっていない。
- 一度本島の事業者と話し合いを持つ機会があったが、なかなか意見が揃わずに進められなかった。
- ◇ 法的なルールに踏み込むかは慎重に検討した 方が良い。
- ◇ 自分達に合ったやり方を考えながら、エコッーリズム推進全体構想を柔軟に見直すことができると良い。
- ◇ この10年で状況が変わってきたので、協議 会メンバーもあわせて変えていく必要がある。
- ♦ 協議会ではなく、まずは意見交換会のような 柔軟な形で話し合いの場が持てると良い。
- ♦ 村内の横のつながりを機能させていくような 環境やネットワークを作れると良い。

# 星空保護区への加入 / 星空保護区への加入、宿泊客の増加

- 保護区の範囲は慶良間全体だと時間が かかるので、座間味村を認定すること を考えている。
- 認定には最低でも3~4年はかかるので、まずは地元住民に星に興味を持ってもらえるような活動を行っている。
- 元々暗さの基準はクリアしているため、 他の地域と比べて認定の難易度は高く ない。
- ◆ 条例で決めるべきこともある。

- ♦ 新しい施設が出来るときに対応してもらえるよう、光害の影響等を周知してほしい。
- ◇ フットライトにすると星もきれいに見え、安 全も確保できる。
- ◇ 港の先、島の南側の空は、南十字星が見える こともあって特に観光客からの評判が良い。
- ♦ 小さなエリアから徐々に認定範囲を拡大して いくことはできないか。村内に一つ事例を 作ってみるときっかけになりやすい。

#### 冬場と夏場の入 域者数・宿泊者 数増 / 冬場の入域者数

冬場の入域者数 (4,000人増 1,000人月)、宿 泊者数を増やす、 消費単価UP

- 夏場は船が満席だが、冬場は半数以下。 冬場に観光客を呼び込むための新たな ツアーをつくれないか。
- ノープランで訪れた観光客にも楽しんでもらえるようなアイディアはあるか。 当日すぐに受けられる体験アクティビティも少ない。
- ◇ 夏は目一杯忙しいので、冬はゆっくり休みたいという事業者もいる。観光業以外の産業に活路を見出せれば良いのではないか。
- ◇ 冬に収穫できる農産物をオーナー制度のよう な仕組みで育て、収穫期に来て食べてもらう というようなことができるといい。
- ◊ 陸からのホエールウォッチングも良いと思う。
- ◇ 沖縄そばのような、各店舗のご当地メニュー の味比べが出来るといい。

#### 特産品開発/ 特産品の開発、6 次産業化

- 3月と11月にワークショップ「農業を考える会」を開催し話し合いの場を持つ。
- 「来島者数10万人×千円 = 1億円」という市場に対して特産品を売り込み、ワクワク感のある取り組みを行いたい。10万人へ農作物を売り込めるだけの面積はある。
- 島の子どもたちに「阿嘉島」という テーマで描いてもらった絵をクッキー として商品化し、GWから販売予定。
- ◇ 島内で特産品を加工できる場所や仕組みづく りができるといい。「売るものが何もない」 ということがないようにしたい。
- ◇ 地元を巻き込みながら特産品を作れるといい。
- ◇ 地元のストーリーを商品に入れるといい。
- ◇ 慶良間の生き物のフィギュア等をガチャガ チャで販売できるといい。
- ◊ 移住者と地元の人との意見交換会のような場で、移住者ができることを考えられるといい。

- 外国人が増えているが英語が話せない。
- 命を預かる仕事なので、通訳された英語が理解できないと責任を負えないため、簡単に通訳を雇うことができない。
- 英会話教室を開いてくれると嬉しい。
- ◇ 島の観光に合った必要な英会話だけでも習得したい。業種ごとの専門用語を覚えたい。
- ◇ 例えば島の子ども達にお店で注文する時は英語で、 ということにするとお店側も英語の練習になる。
- ◇ 気軽に英語を話せる雰囲気づくりも重要。
- ♦ 役場が以前作成した外国語指さし表をアップ デートして、簡単なツールとして活用したい。
- ♦ 外国人移住者に実際にマリン体験等してもらい、 そこで必要な英語を教えてもらえるといい。
- ♦ 観光協会の外国人スタッフも協力してくれると 思う
- ◇ 船の時間変更等の英語対応も必要。

#### 外国人観光客受 け入れ/ 外国人観光客の受 入体制強化

# 意見交換の概要@渡嘉敷村

| _             |   |
|---------------|---|
| <i>&gt;</i> 7 |   |
|               | , |

| テ <b>ーマ</b> /<br>2025 <b>の目標</b>   | 現状・課題  | 挙げられた主なアイディア  |
|--|--|---|
| 資料館の活用/<br>資料館の入館者数<br>のUP   | <ul> <li>資料館への入館を団体ツアーのメニューにしたいという問い合わせが増えている。</li> <li>観光協会にも、1日平均3~5人ほど、資料館開館についての問い合わせがある。</li> <li>資料館の内容・立地は良いまずは資料に見るであるであるであるがある。</li> <li>教育委員会から観光協会へ、管理委託の音がある。</li> <li>本に入を配置するとと大でもまば、対したいといけなくな財の大きに対応しないといけなく対別の扱いには対応ででするのが、に対しないといけなく対別の扱いには対応できまが、といけなく対別には対応が、は変嘉敷村の文が、無人開館は対しい。</li> </ul> | <開館方法について> ◇ 地元の高齢者をガイドとしてにはどうか。 ◇ 地元の高齢者をガイドとして雇い、必要な人にはガイドしてもらうのはどうか。 ◇ 端末を設置し、資料の情報を見られるようにずるという方法も考いるもの歴史を知っている人に、1日3時間で来できるとができるといいできるとができるといいできるがいができるといいできるといいできずりで来るまでできるといいのの時間はとしてのの時間はとしてのの時間はとしてのの時間はとしてのの時間はといいのの時間はといいのの時間はといいのの時間は無力といいののは変すされば資としていか。 ◇ 対にあるを使っていか。 ◇ 対はにあるを使っていか。 ◇ 飲食店を隣接し、お生のののは会をではないののよりではないがのではないがのではないがのではないがのではないがいるといいのようにあるというのはないがいるというのではないがいるというのではないがいるというのではないがのではないがいるといい。 ◇ 対はにあるを考えているといいのはなすぎる。適下な会にはいるのはなすぎる。適下な会にはいるのはながいるといい。 ◇ 待合所で少し展示をして興味を持ってもらい、資料館に誘導するといい。 |
| 本島の高校生を<br>対象とした探求<br>活動プログラム<br>の確立/本島の<br>高校生対象とした<br>探究活動プログラ<br>ムの確立 | ● 学生たちに渡嘉敷のことを知ってイアであってイアを開題を解決するであるであるであるであるであるであるであるであるでもられてきるけでする。とできるは、とできるはで学すですが、コースを書がある。とできたい。というでは、ままらがでは、ままがでは、ままができない。は、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、まま  |   |

# あいさつ

第3回ワークショップにご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 次年度以降もワークショップを開催し、地域の皆さんと一緒に具体的な取組について考えていきたいと思います。 引き続き、よろしくお願いいたします。

流する中で課題が見つかるのではないか。